

## 第5章 まとめ

### 1 本書の編集意図

『ビハーラ活動30年総括書』は、2019年度の発刊を目標として、2016（平成28）年5月に開催された第1回ビハーラ活動推進委員会にて、30年総括書発行に伴う各教区への調査・編纂作業を企画研究専門部会へ付託されたことにはじまります。企画研究専門部会では、さらに下位にワーキンググループ（WG）を組織し、実働しやすい環境を設定しました。WGのメンバーとして臨床現場で活躍する専門家、統計学専門の有識者をはじめとして、宗門のビハーラ活動関係者により構成しました。まずWGで素案を作成し、次に上位の企画研究専門部会で審議し、最終的にビハーラ活動推進委員会で審議・承認されて編集・発行されたものが本書です。

その編集目的として、以下の3点を徹底しました。まず1つ目は、宗門におけるビハーラ活動の現状をできる限り正確に把握するという点です。2つ目は、そうした現状理解の上で、今後、宗門におけるビハーラ活動を推進し運動として展開するために役立つ情報の提供という点です。3つ目は、アンケート協力者が回答しやすい質問を設定するという点です。この3点を絶えず確認しながら編集作業を進めました。アンケートは全部で3種類〔教区ビハーラ用（対象は全国の31教区と沖縄特区）、ビハーラ活動全国集会用（対象は第16回ビハーラ活動全国集会・30周年記念大会参加者）、ビハーラ活動者養成研修会修了者用（対象は第19期～26期生）〕です。そのため、かなりの時間を費やし、作業がなかなか進まなかったこともありました。アンケートの回収方法として、郵送または直接で行いました。また、アンケート用紙とは別に、インタビュー調査を行いました。対象者はビハーラ僧養成研修会（仮称）【試行】修了者です。この調査は今回初めてです。

手順として、以下の編集作業に取り組みました。まず先行研究（総括書）である『ビハーラ活動10年総括書』および『ビハーラ20年総括書』の内容を確認するとともに、その編集意図を尊重し踏襲しました。また、調査に使用されたアンケートの設問1つ1つについて確認し、宗門のビハーラ活動が始まって以来30年を経過した今、何を残し、何を変更するかの精査を行いました。『宗勢基本調査調査票』も参考にしながら、今回に使用するアンケート用紙の作成を試みました。編集作業の際、気をつけたことは用語の整理です。読者が本書の目次を見て、どこに何が記載されているかを分かりやすく整理しました。本書の第3章と第4章には、アンケート調査による分析・結果と考察を掲載しています。第3章には「ビハーラの現状－調査報告－」として「1. 教区ビハーラ活動者の現状」「2. ビハーラ活動全国集会の現状」を、第4章には「ビハーラ活動者養成の現状－調査報告－」として「2. ビハーラ活動者養成研修会の調査報告（第19期～26期）」

「4. ビハーラ僧養成研修会（仮称）【試行】の調査報告」を掲載しました。詳細については、当該箇所をご覧ください。

さらに、ビハーラ活動は仏教・医療・福祉が連携して行われます。宗派では親鸞聖人750回大遠忌宗門長期振興計画、続く宗門総合振興計画に基づき「仏教精神に基づく社会への貢献」として推進されています。ビハーラ活動者の施設での研修・実習として、これまで浄土真宗本願寺派関係高齢者施設連絡協議会の加盟施設をはじめとして、ビハーラ活動の理念に協賛いただく病院や高齢者施設のご協力をいただいています。これに加えて、2008（平成20）年4月、活動の拠点となるビハーラ総合施設として「特別養護老人ホーム ビハーラ本願寺」と「あそかビハーラクリニック（現独立型緩和ケア病棟 あそかビハーラ病院）」が開設されました。本書の調査対象年度はビハーラ活動開始約20年以後としているため、これら2施設における宗門の意義とともに、「第2章 宗門の新たな取り組み」として記載します。

## 2 ビハーラ活動の課題と展望

### （1）ビハーラ20年総括書に提起された課題

ビハーラ20年総括書には「これからの課題」として、以下5項目について記載しています。

- ①ビハーラ活動の拡大と深化を基本に取り組む
- ②ビハーラ活動に有効な啓発を進める
- ③機能的に人材養成を進める
- ④情報の収集と提供をしていく
- ⑤教区ビハーラの充実をはかり、教区内のビハーラの連携を強化する

以上、上記の内容として①会員の高齢化と固定化の問題、②必要な視聴覚教材の作成と有効活用、③ビハーラ活動者養成研修会修了者と教区ビハーラの連携、④現場での活動記録の集約、⑤組織的重心としての教区ビハーラの役割は、いずれも重要な指摘です。またビハーラ活動が始まった10年を「萌芽の10年」（10年総括書）、その後の10年を「伸長の10年」（20年総括書）と呼ばれることから、このたびの30年総括書の内容は「成長の10年」であることから、20年総括書で提起された課題に対しどのような取り組みがなされ、次の10年へと課題をバトンリレーできるかが本書の内容でもあります。今回の調査・分析により、課題がさらに具体化されたので、以下に記載します。

### （2）30年総括書における課題と展望

以下、3種類のアンケート調査によって具体的にになった課題と展望について記載します。なおアンケート調査の対象者について、教区ビハーラについては各教区のビハーラ代表者もしくは教